

生涯学習情報誌

Life Learning

4 2015
Apr.
NO.296



生涯学習開発財団

「博士号取得支援事業」

2014

助成金授与者決定



安藤 泉 (59歳)

「ストレス防御体制のメカニズムに及ぼす神経成長因子(NGF)の効果に関する研究」

駒井睦子 (50歳)

「アルゼンチンの近代詩研究…
女流詩人アルフォンシーナ・ストルニの作品を中心に」

高梨久美子 (64歳)

「16世紀前半の在イングランド駐在大使による
外交交渉に関する研究」

豊増桂子 (52歳)

「遠隔看護の技術を用いた糖尿病患者の自己管理
支援ツールの介入モデル(プロトコル)の開発」

福田淑子 (55歳)

「15世紀後半の「無原罪の宿り」を巡る神学論争が
マリア図像に与えた影響について」

藤井康幸 (52歳)

「米国の人口減少都市におけるランドバンクによる
空き家・空き地問題対処に関する研究」

(五十音順、年齢は授与式当日)

平成26年度「博士号取得支援事業」授与式が3月16日(月)、生涯学習開発財団にて行われた。今年度の募集は昨年12月15日に締め切られたが、総数で66名の応募があった。第一次選考では4名の選考委員により12名の候補者が選ばれ、2月25日、第一次合格者の面接を行った。続く第二次選考委員会による最終選考の結果、上記6名を合格とさせていただいた。

6名の方々が何によって本事業を知ったか訪ねたところ、新聞記事、学内掲示板のポスター、大学からの一斉メール、インターネット検索など多岐にわたることがわかった。



「博士号取得支援事業」 2014 ● 助成金授与者決定



財団応接室にて、理事長・松田妙子から合格者一人ひとりに合格通知書と助成金目録が授与されたのち、張競選考委員長から選考経過や総評が伝えられた。

その後、恒例の桜餅をいただきながらの懇談の場では、財団理事長・松田妙子が「すでに頑張っている方々ですから多くを言う必要はありませんが、今回は最高齢が64歳で皆さんまだまだお若いので、これからですよ!」と励ました。

選考の言葉

選考委員長 張 競

(明治大学教授／博士（学術）)



本年度の選考が無事に終了し、去る3月16日、松田妙子理事長により授与式が行われました。ここに選考委員一同を代表して、合格した6名の方々に祝賀の意を表したいと思います。本当におめでとうございませう。

本事業が実施されてから、今年ですでに5回目になります。大学や研究機関では広く知られるようになり、新聞や雑誌でもたびたび紹介されています。これはひとえに理事長をはじめ、事務局の皆さん、選考委員の諸先生のお蔭だと感謝しています。

一昔前に比べて、生涯学習をめぐる環境は大幅に改善され、社会人の博士号取得を目指す方も年々増えています。とはいえ、20代に比べて、50歳以上の社会人にとって、博士号の取得にはまだまだ困難が多くあります。応募者の皆さんがそうした困難を乗り越え、博士号の取得を目指して一生懸命に努力している姿に、選考委員一同は深く感銘を受けています。

第一次選考の合格者は各分野で優れた研究業績を挙げています。しかし、採用枠には限りがあり、最終合格者を絞らざるをえませんでした。選考委員にとつては難しい判断でしたが、断腸の思いで12名の候補者から6名を選びました。惜しくも選に漏れた方は一層精進し、来年以降も応募するようお願いしています。そして、めでたく合格した方はますます努力し、一日も早く学位を取得するよう、選考委員一同は心より期待しています。

本事業が実施されて以来、これまで37名の方が合格し、そのうち11名がすでに博士号を取得しました。2015年度中に学位を取得する予定の方も複数います。生涯学習を推進するために、選考委員一同は皆さんとともに、本事業のますますの発展のために微力を尽くしたいと思います。

2014

博士号取得支援決定をうけて



安藤 泉

59歳

東京農工大学
生物システム応用科学府
アイメイト協会
ボランティアスタッフ

**ストレス防御体制のメカニズムに及ぼす
神経成長因子(NGF)の効果に関する研究**

■研究目的

サイトカインとは、細胞から分泌される蛋白質で、細胞相互作用に関与する生理的活性物質の総称。神経成長因子は神経の生存や維持、免疫担当細胞の生存、機能に関して促進的に働くサイトカインの一つで、生体内の多くの部位に存在することが判明してきたが、その役割は未知の部分が多い。獣医学という専門性を生かし、実験対象はヒトと同じ環境下で生活しているイヌを用いる。訓練への応答性、対処力を適正に判断するために、順次、確認実験を行う。研究では血中NGFの変動とストレスへの反応性を考察し、ストレスへの防御体制を整える働きに関与していることを解明する。得られた成果を盲導犬などに適用し、科学的な判断基準の確立を目指す。

■合格のコメント

自分のことを変わったおばさんと勝手に括っていたが、今回の応募で同じ目標を持つ多くの人がいることがわかった。自分より年配の人もいて大きな励みとなった。NGFの血中動態を測定することで、血中アドレナリンやコルチゾールでは区別できなかったストレスの種類に対する生体反応の可視化の可能性も示唆された。将来的にはストレスを自覚していないレベルでも、早めに検知できるようにと思っている。



駒井睦子

50歳

東京大学大学院
総合文化研究科
清泉女子大学、相模女子
大学、昭和女子大学
非常勤講師

**アルゼンチンの近代詩研究…
女流詩人アルフォンシーナ・ストルニの作品を中心に**

■研究目的

20世紀初頭アルゼンチンで活動した女性詩人アルフォンシーナ・ストルニの詩作後期における変化の要因を解明したい。彼女が誰から影響を受け、その独自性とは何かを考察している。アルゼンチン文学界は1920年代に前衛文学運動が活発化したが、1930年代にはその運動も鎮静化した。そのことと彼女の詩作の変化は密接に関係があると思われる。1930年代にストルニと交流を持ったスペイン文学者ティエス・カネードとその周辺について現在調査中で、研究成果は日本とスペイン語圏の相互理解に貢献するはず。スペイン語圏の諸国では詩が好まれ、文化のベースとなっているため、その詩の真髄を知ることが重要な機会と言える。

■合格のコメント

今回の応募で中高年や高齢者の知的育成は、日本の国力を豊かにするための重要なテーマであると改めて感じた。博士論文完成後は、同時代のスペイン詩を研究し、大西洋を挟んだ欧州と南米の文学交流と、相互の影響についても考察していきたい。スペインは内戦勃発前の1920年代に優れた文学者がたくさん現れ、「スペイン27年世代」と呼ばれていた。この世代の研究でスペインとアルゼンチンの詩壇の関係にも迫りたい。



高梨久美子

64歳

お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科

**16世紀前半の在イングランド駐在大使
による外交交渉に関する研究**

■研究目的

複雑な国家間の争いが繰り広げられていた16世紀のヨーロッパで、ハプスブルク家出身の神聖ローマ皇帝カール5世は、1519年に即位すると広大な領域を支配するようになり、1529年にイングランドのサボイ出身のシャブイをイングランド駐在大使として派遣した。彼の16年間の駐英中、ヘンリー8世の宗教改革、イングランドのローマ教会からの離反、カール5世と同盟を結び対仏戦を行った激動を自らの目で眺めた。研究では、駐在大使から見たイングランド、この時代の君主と駐在大使との関係、駐在大使を活用した外交交渉を提示したい。イングランドの宗教体制の変化は一国の問題ではなかったはずで、研究の成果は新たな視点を示す可能性がある。

■合格のコメント

同年代の博士号挑戦者は多くおり、支援制度は感謝の一語に尽きる。志を同じくする人に、制度の存在を知ってもらい、活用してほしい。2015年中に、この博士論文を出版社から刊行する予定。16世紀以前にイタリアで始っていた駐在大使の派遣が、研究対象の時代には慣行が定着し始めていた。今後はイタリア、ポルトガル駐在大使からのイングランドへの視点も研究し、シャブイの視点に幅を持たせたい。

2014

博士号取得支援決定をうけて



豊増桂子

52歳

筑波大学大学院
人間総合科学研究科
筑波大学
非常勤研究員

遠隔看護の技術を用いた糖尿病患者の自己管理支援ツールの介入モデル（プロトコル）の開発

■研究目的

糖尿病は自覚症状に乏しく、病気であることを受け入れたり、血糖値コントロールのための日々の生活管理を維持するには多くの困難を伴う。そこで、糖尿病患者やその予備軍が、発症や合併症の予防のために健康の自己管理を持続できるよう、支援や働きかけが重要だ。研究では支援策として、家庭や病院等とを1丁で結んで看護を提供するテレナーシング（遠隔看護）による介入モデルを構築して提案する。構想の基盤となっているのが公開特許となっている「次世代型遠隔看護システム」で、糖尿病の予防に焦点を当てたものに発展させていく。高齢社会や医療費高騰に対して、入院期間を短縮する政策がとられている。自宅療養が余儀なくされる中、有効なシステムとなるはず。

■合格のコメント

50歳以上でも社会貢献できると自覚をさせる制度で、今回の合格は勇気を与えてくれた。今後は具体的なシステムの構築、実験、評価などが目標となる。そのために、人間を対象とする研究も行うことになり、所属機関における倫理審査を受けるなど、研究計画を洗練させていく予定だ。遠隔看護システムは大きな役割を果たすと共に、看護師の新たな活躍の場となり、雇用確保にもつながると思っている。



福田淑子

55歳

早稲田大学大学院
文学研究科
美術史学コース

15世紀後半の「無原罪の宿り」を巡る神学論争がマリア図像に与えた影響について

■研究目的

「無原罪の宿り」はイエスの母・マリアが、その母の胎内に原罪なく懐胎したとする教義。19世紀に教皇ピウス9世によって正式に認められ、カトリックの中核的な教義となった。しかし過去には、否定的なドミニコ会と護衛派のフランシスコ会、2大托鉢修道会が、特に15世紀後半から16世紀半ばに、「無原罪の宿り」を巡る神学論争を展開。その際に宗教画としてのマリア図像が多数制作された。研究では、ほぼ同時期・同地域に両修道会の施設に描かれたマリア図像を選定し、神学論争を軸に考察し、図像解釈を試みる。伝統的美術史学の様式の比較だけでは不可能な、正しい図像解釈を提示し、幅広い視野から、統合的なアプローチを試みる。

■合格のコメント

マリア論の中核的教理である「無原罪の宿り」を体系的に論じていくには、神学、哲学、史学、美術など、広く横断的な知識の集積が必要だ。研究対象のマリア図像はイタリアに現存し、今回の合格で、研究旅費負担を和らげることができた。美術史と神学、哲学をシンクロナイズさせ、先行研究にはなかった新たな視点から、マリア図像の解釈を提供することを目指す。さらに多角的視点や意見の収集のために、他分野の研究者との交流を深めていきたい。



藤井康幸

52歳

東京大学大学院
工学系研究科
都市工学専攻
民間研究所勤務

米国の人口減少都市におけるランドバンクによる空き家・空き地問題対処に関する研究

■研究目的

ランドバンクとは、放棄家屋や空き地を利用物件に転換することに特化した準行政機関。米国では空き家・空き地問題対処の一つの有力なツールとなっている。米国中西部には、過去50年で人口が半減した中核都市がいくつか存在するが、郊外化や人種問題が加わり、再構築、活性化を難しくしている。研究は米国で導入されたランドバンクの発展経過と機能について分析。経済的に衰退した都市を一足飛びに再生することは難しいが、住民、コミュニティの力をうまく活用している地区は成果を上げている。地区特性に応じた土地活用や事業プランを展開しつつ、地域コミュニティ開発支援と関係者との協働がポイントとなっている。

■合格のコメント

文献調査、各種データの閲覧、米国の現地訪問調査など、コスト面で今回の合格は助かっている。この研究は日本の人口減少期における都市の再構築のあり方に、有益な示唆を与えると期待しており、学位取得後には、日本の空き家・空き地への対処方策にも研究範囲を広げたい。特に日本では今後、地域力向上の期待が高まると見られ、地域の再生についての教育、研究、実践に携わり、カリキュラムの構築を目指し、貢献していきたい。

ワークショップ・プロデザイン×コミュニケーションデザイン

シリーズ第6回は京都での開催。多くのコミュニケーションデザインを手がける山崎亮氏をお招きし、氏の現場ではどのようなコミュニケーションとワークショップが行われているのか、講演とクロストーク、質疑を通して考えた。

山崎氏が独立した2000年代はすでに建築の仕事は減少傾向にあった。02年から姫路市・家島のまちづくりに関わるが、3年間は手弁当。後についた予算も交通費が精一杯だった。家島での仕事が評価され、隠岐諸島・海士町のコミュニケーションデザインの依頼に繋がるが、studio-Lが軌道に乗ってきたのは10年ころだという。

「つなげるデザイン」と「つくらないデザイン」

コミュニケーションデザインを「つくらない」デザインと例えることもある山崎氏だが、実際には「つくる」ことを中心に据えた事例も少なくない。たとえば、コンパクトシティを目指す北海道の沼田町。市街地集約により医療や除雪などのインフラをリストラシ、財政の立て直しをはかる。中学校跡地に診療所や福祉施設を備えた複合施設の計画がある。この施設の内容を決める前に、住民参加型勉強会の「これから塾」を開催し、まちの現状を徹底的にインプットした。



中脇(左)、蓮行(中) 両氏が、山崎氏(右)の懐に深く入る質問を投げかける

2014年12月7日 梅小路公園 緑の館

講演：山崎 亮 studio-L代表／東北芸術工科大学教授／京都造形芸術大学教授

インタビューア：中脇健児 NPOワークショップデザイナー推進機構理事

ナビゲーター：蓮 行 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師／劇作家

■多くのプロジェクトを同時にまわすコツ

現在studio-Lは65の案件を25人（うちプロジェクトリーダー11人）で動かしている。その組織づくりでも、またまちづくりにおいても、山崎さんがいなくても回る状態が目標で、「もう必要ない」と言われた時が仕事の終わりと考える。

ワークショップへの参加者は、放っていても最初から集まるわけはなく、何度も足を運び仲良くなって参加を呼びかけている。家島ではおばちゃん10人のワークショップから始めた。

話題になった小豆島のプロジェクトでは、依頼があった際に「島の人たちがアイトをつくる形なら引き受ける」との条件をだした。島の人には不要品の利用が上手なので、島名産の醤油が酸化化したものと、モデルチェンジで不要になった8万個もの弁当用の醤油たれ瓶を利用したアート制作を提案し、多くの島民が参加した。

今回は京都駅近くの梅小路公園内で、池の端の緑が会場の中まで続いている心地良すぎる会場。少し手狭でスピーカーと参加者の距離が近いせいか、あるいは山崎氏のオーラなのか、アットホームな雰囲気生まれ、予想外の失敗談まで聞くことができた。笑いをとった失敗談も、「今は失敗しそうな段階でリカバリーします。やはり期待されている以上成果を生まなければならぬですから」と語り、ただワークショップをやるだけでは終わらない、継続と結果につなげる視点の大切さを感じさせた。

そして、そのアウトプットのためのワークショップが「つなげる塾」。複合施設のスペースや予算を可視化できる模型をつくるシミュレーションした。その際重要だったのが、事前準備として参加者が手に取る模型をつくることだった。その結果「つなげる塾」では、やりたいことと予算など現実面のバランスがとれた参加者が納得できるプランがつくられた。

一方「つくらない」事例として紹介されたのは、新潟県燕市の「つばめ若者会議」。3年計画で「20年後の燕市を考える」おおむね40歳以下の会議体を運営する事業だ。燕市の未来を考えたい若者を募り、燕市のいいところを出し合った。その後9つのチームを結成し、作成したアクションプランを市長や市民の前で発表した。直接は何も「つくらない」事案だが、行政と若者の距離が縮まったことや、発表会やチームの運営が若者たち自身によってなされるなど、自発的行動が生まれている点に手応えを感じているとのこと。

生活の器だから作り手と使い手の遊び心が交差する



色絵銀彩面取鉢 2009年
第56回 日本伝統工芸展 日本工芸会総裁賞受賞作品



陶芸 前田正博

Maeda Masahiro

1948年 京都府久美浜町に生まれる
1975年 東京藝術大学大学院工芸科陶芸専攻終了
1983年 今日の日本の陶芸展出品(ワシントン・スミソニアン博物館、
ロンドン・ヴィクトリア&アルバート美術館)
1992年 日本の陶芸「今」100選展出品(パリ、東京)
1998年 伝統工芸新作展奨励賞受賞
2005年 菊池ビエンナーレ展優秀賞受賞
2008年 智美術館大賞 現代の茶陶器展優秀賞受賞
(菊池寛実記念智美術館)
2009年 日本伝統工芸展日本工芸会総裁賞受賞
2010年 岡田茂吉賞MOA美術館賞受賞
2011年 2010年度日本陶磁協会賞受賞

多様な価値観を認め合える社会のために、まずは日本人が日本文化を学び直すことが大切。「日本の技インタビュー」第1回は、伝統に遊び心を見事に調和させた器と気さくな人柄がファンを呼ぶ、前田正博氏を訪ねた。

——なぜ陶芸の道に入ったのですか。

子供の頃から美術が好きでした。3浪してやっと東京芸大に入ったので、うつぶん晴らしというか、毎日が楽しくて、朝から晩までずっと学校で制作し、2年生までに絵画や彫刻、工芸一般をひと通り全部やったうえで陶芸を選びました。陶芸の工程は進むごとに変化するので、楽しく自分に向いているのではと思ったからです。

——前田さんの作品の赤や青の鮮やかな色使いが私には好きなのですが、食器では珍しいですよね。

一般に磁器は白っぽいイメージが強くて、特に白磁はクセがないから、逆に何でも試してみようと、赤のような彩色も使ってみるわけです。青は皆さんに好まれますね。器としては赤は採用されにくいのですが、自由に自分の思いを表現することを優先しています。

——第一人者になるまでにどんな努力をされましたか。

陶芸を始めた大学3年からですと繋がっているんです。最初の1年くらいはまったくダメでしたが、繰り返し作っていくうちに、人に教えられるくらいにはなるのでしょ。粘土は扱いにくく、なかなか思うようになつてくれません。窯に入れて焼いてみると、自分がイメージしたものとは違うものができてきます。「しょうがないな」とよく思いますが、それも面白いです。

それと、いろんなものを見るようにしています。古本

屋で建築や昆虫などの図鑑を見たり、抽象絵画の展覧会に足を運んだりして刺激を受けています。

イメージが頭の中に姿を現してくるとまずはロクロに向かいます。ロクロを挽いて、形になったものを削って焼いて、作っていく工程でイメージを実際の形に近づけていきます。思ったように形にならなかった時でも、もう1回、またもう1回と、何度もチャレンジします。頭の中のイメージだけでは持続しません。

買っていたとか、人より面白い物を作りたいという競争心もあって、進化していると思います。

——日本の伝統文化としては、陶芸をどのように捉えていますか。

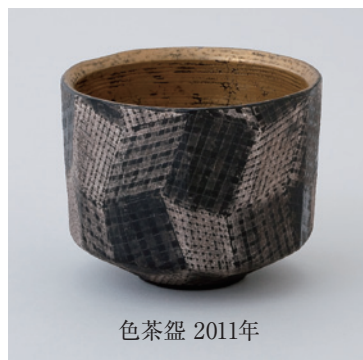
ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国々を回りましたが、工芸は日本が一番だと感じます。伝統かどうかは時間が決めることですが、日本人の自分が日本で作っているのだから、日本の文化なんでしょうね。特に食器は自分が常日頃使ってきたものです。でも、こうだったらいいな、こんなのも面白いと、少しずつ変化させていきます。そうしたところに文化が表れるのかもしれない。

——なぜ、六本木に工房を構えたのですか。

東京のど真ん中だからです。私は京都府出身ですが、京都駅から3時間以上かかる田舎で、美術に関する情報もほとんどありませんでした。東京は刺激も多く、作陶へのヒントを得る機会が増えます。なによりお客様が来やすいし、友人にも陶器を作りたい人が多く、そうした要望に対応しやすい場所です。私の作陶だけではなく、陶芸教室の生徒さんも気軽に足を運べます。

——前田さん独自の、洋絵具を彩色に用いる手法を取り入れている理由は。

重ね塗りができることです。私の場合、マスキングテープを使って、彩色しては焼くという工程を5、6回繰り返します。和絵具だとガラス成分が多く入っていて、



色茶鉢 2011年



色絵金銀彩蓋付壺 1990年



色絵金銀彩輪花鉢 1990年

何度も焼くと剥離してしまうのです。油絵をやっていた大学時代から古いキャンバスに色をのせたり、削ったりしていましたから、やきものでも同じようなことができなかつたかと洋絵具を用いる事にたどり着いたのです。そうやって、いろんな表現にトライしています。

——食器は一般の人にも身近ですが、アートの作品も考えておられますか。

人に買って使っていた点からという点からも、作るものは器が主になります。何点か揃った数ものをロクロで挽く場合、トンボという道具で大きさを合わせていきます。コーヒーカーップならばカップの角度、下に置く皿とのバランスなどを考えて挽いていきます。磁器は焼く

と縮みが激しいので蓋物も合わせが難しいです。皿も、尺を越す大きなものは値段が高くなります。やはり作るのが易しくはないからです。

用途のないものは無理ですね。アートと職人的思考は回路が違うんです。ただ、そこに在ることで、その場の雰囲気をもたせられる器というものはあります。絵画的な表現を食器という立体の中に取り込んだきたのもそのひとつです。楽しんで遊び心で作った器なので、使う人も自由な発想で使っていると思います。

——ボランティア活動もされているそうですね。

サントリー芸術財団の声かけで「おもしろびじゅつ教室in東北」という震災復興ボランティアで小学生に陶芸体験をしてもらっています。皿やそば猪口に切り絵の感覚で色をつけるのですが、みんな夢中になります。うちの陶芸教室でもそうですが、子供の発想は豊かで刺激を受けます。



上等の茶道具を使って小学生に茶道体験をしてもらう取り組みも、文化庁とMOA美術館の支援で行っており、私は陶芸の話をしています。

嘉門工藝さんの、お茶の魅力や日本文化を親しみやすく紹介できる茶籠セットも子供達に評判でした。



聞き手:上野由美子(左)

古代オリエントガラス研究家。UCL(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)考古学研究所在籍中。2012年国際日本伝統工芸振興会の評議員。ARTP副団長として王家の谷発掘プロジェクトに参加(1999年~2002年)。聖心女子大学卒業論文『ペルシアガラスにおける円形切り装飾に関する考察』、修士論文『紀元前2000年紀に於けるコア・ガラス容器製作の線紋装飾に関する考察』ほか、執筆・著書多数。

◆筍と山菜の煮物

〈材料／4～5人分〉

新筍（茹でたもの）…………… 1本
ツワブキ（ 〃 ）…………… 50g
ワラビ（ 〃 ）…………… 50g
茎ワカメ…………… 30g
菜の花…………… 20g

《煮汁A》

だし汁…………… 3カップ
薄口しょうゆ…………… 大3
みりん…………… 大2
食塩…………… 少々

〈作り方〉

- ①筍を煮汁Aで煮て、ひと煮立ちさせる。ツワブキ、ワラビ、茎ワカメを加えてさらに煮る。
- ②菜の花は塩ゆでして、4～5cmの長さに切っておく。
- ③器に、①と②を盛り合わせる。

※タケノコのおいしい茹で方は右文章をご参照ください。



タケノコ 筍と山菜の煮物



茹でた破竹（細長いタケノコ）に、すし飯を詰めた竹の子寿司も、行楽などにお勧めです。破竹はアクがなく生でも食べられますが、だし汁にみりんと薄口しょうゆを加えて煮付けました。

提供：FLAネットワーク協会

一般社団法人FLAネットワーク協会では、食生活アドバイザー®検定を通して、正しい食事を生活とともに提案し、適切な助言や指導ができる食生活の専門家を育成しています。また、様々な面で優れている和食の見直しと普及にも力を注いでいます。お問い合わせは▶TEL 0120-86-3593

野趣豊かな春の味覚の代表食材「タケノコ」。栄養価はさほど高くないのですが、塩分の排出に役立つカリウムと食物繊維は豊富。便秘がちな人や、コレステロール値が高い人にはお勧めの食材です。食物繊維が豊富だけに消化しにくいので、胃腸の弱い人は食べ過ぎないようにご注意ください。タケノコは、煮物・炒め物・和え物・揚げ物・炊き込みご飯・汁の具のほか、新鮮なものは刺身でも食べられます。タケノコ独特のエグミのもとにはシュウ酸で、それを除くには十分なアク抜きが必要。時間の経過とともにエグミが強く出てくるので、新鮮なうちに皮ごと茹でるのが基本です。米ヌカや赤トウガラシを加えたたつぷりの水に入れ、落し蓋をして1時間ほど茹でます。根本に竹串が通るようになったら、火から下ろして、ゆで汁ごと冷まし、水で洗って皮をむきます。タケノコは竹の子でもあります。漢字は竹に旬と書いて「筍」。10日間で竹になってしまうからだとか。ぜひ他の山菜と合わせて、短い旬をいただきましょう。